

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2021 年 9 月 1 日 発行
(通巻 490 号) 定価 100 円

現代座レポート No. 87

- ・『風は故郷へ』協力協同で実現のお礼 (1)
- ・追い詰められての劇場公開・作品の意図 (2)
- ・ものがたり (3)
- ・「われらいずこより来たる」(1963 年) (4-7)
- ・お知らせ 会館日誌 会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987



【合唱のたびに透明のビニールカーテンが降りてきます】

「風は故郷へ」現代座ホール公演は応援協力者と力を合わせ、全員で困難を乗り越え、なんとか実現できました。当初は 21 日から 8 ステージの予定でしたが、27 日から 3 日間の 3 ステージに変更しました。客席は半数にして毎回 40 人の定員で 3 日間とも満席になりました。劇場を実現するため協力してくださった応援の俳優、技術者の皆さん、そして何よりも当日会場に駆け付けてくださり、励ましてくださった会員の皆さま、本当にありがとうございます。【詳細は 2 ページで紹介いたします】

『風は故郷へ』協力協同で実現



托善和尚
木の下敬志



義男おじさん
中村保好



次男、哲夫
八木浩司



長女、初子 2
長谷川葉月



長女、初子 1
矢川千尋



娘・麻里
環 幸乃



妻・玲子
渡部美和



長男・一郎
永野和宏
(劇団新人会)



父親、誠三
黒澤義之

出演者



応援出演
大菊友梨子



応援出演
堀部祐輝



応援出演
神田李野



応援出演
相良孝雄



集落の娘
きらり



配達員
青木文太郎



息子幸一
岡崎拓哉



隣の正子さん
木下美智子



農協職員
鹿目久憲
ZAI OFFICE



保健婦夏子
東 志野香

【その他スタッフ】
照明 渋谷博史
照明 木村康恵
映像制作 小田史一
舞台監督 服部寛隆
題字 笹山栄一



衣装
有島由生
(斧頭会)



音響
入江浩平



照明
上村 遥

スタッフ



応援出演
岡倫太郎



応援出演
内田和也



応援出演
上田健介



応援出演
木元志織

ビデオ撮影 桑原重美
写真撮影 山本幸則
宣伝美術 東志野香
協力頂いた団体 長島秀幸
ワーカースコープ 森岡南宏
制作 木下美智子
会員の方に公演 DVD をさしあげます。
ご希望の方はご連絡ください。



作曲
岡田京子



脚本
木村 快



演出
八木澤賢



受付
白石里子
(ボラー)



受付
柳澤友希子

追い詰められての劇場公開

この公演は当初昨年2020年の9月を予定して、3月から少しづつ稽古を開始していましたが、ところがコロナの感染が始まったため、やむなく2021年に延期することになったのです。そのため、当初予定していた出演者の中には、様々な事情で出演できない人も出てきました。

新しい公演に向けて配役も全面的に変更することになります。テレビや映画と違って、劇場の命は俳優全員と観客が直接顔を合わせ、心を伝え合う仕事です。俳優はそれぞれ出演可能な時間をひねり出すために右往左往です。

新しい出演者も決まった7月、一人の俳優がコロナに感染しました。幸い軽症で2週間で復帰できたので、改めて感染対策を強化し、全員抗原検査で陰性を確認した上で、7月後半から本格的な稽古に入りました。

ようやく芝居の全体像が見えてきた8月はじめ、またまた複数のコロナ感染者が確認されました。急遽稽古は中止。各自PCR検査を受けます。いよいよ公演は中止かと覚悟しました。

陰性が確認された人たちは稽古場にきてセット作り、小道具作りなどの作業を黙々と行っていました。

感染者4人のうち2人は軽症で復帰の見通しが立ちましたが、2人は入院や長

期療養となったため、配役をまた一部変更することにしました。

稽古中止から10日後、PCR検査でやっと全員陰性が確認され、集まれる人だけで稽古を再開します。公演日は8月21日から29日までの予定でしたが、27日から3日間3ステージに短縮しました。すでに予約してくださっていた皆さんには急いで変更のお願いをしました。

あらためて感染対策を話し合い、セットや小道具に触つたらすぐ消毒し、食事は離れて座り、出入りのたびに消毒するなど、全員必死で取り組みました。

公演前のPCR検査、公演日の抗原検査のたびにドキドキ、ハラハラしながら幕を開けるところまでこぎ着けました。スタッフも創意工夫を重ね、合唱場面で客席に飛沫が飛ばないように、手作りのビニールカーテンを降ろすことにしました。

公演日は会場の前で来場者一人一人の体温チェック、手の消毒、座席の消毒、換気装置のチェック、万一の場合の対策など、スタッフと応援のワーカーズの皆さんが頑張ってくれました。

こうして2年がかりの公演も、一度は中止を覚悟しましたが、無事成立させることが出来ました。どうやら次の一步を踏み出していると思います。公演の実現を心配し、応援してくださった皆さんに心から感謝申し上げます。これからもよろしくお願いします。

木下美智子

弱者の自立は可能か

木村 快

『風は故郷へ』は1980年代に北海道奥地の戦後開拓の集落を訪ね歩いて取材。1987年から1991年まで3次にわたって全国150自治体で157回上演した作品である。

開拓者たちは国策で満州に渡り、さらに敗戦後はシベリアに抑留され、昭和22年以後に引き揚げた人々である。引き揚げ後も故郷には戻れず、「緊急開拓法」で山間僻地の国有林に送り込まれ、自力で原野開拓を指示されるなど、国の政策に翻弄された人々だった。

◆高度経済成長と農業政策の転換
やとと農地が出来上がった1960年代、政府は高度成長を支える労働力を確保するため、農業者の出稼ぎを奨励し、開拓農民は都会へ流れはじめた。東京オリンピックの歌声が流れ、新幹線が轟音を響かせた。だがJR発足によって開拓地をつなぐ鉄道は廃線となり、「農業構造改善事業」で、生産性の低い農地は廃村へと追い込まれる。

◆戦中世代の青春の夢

作品の中心人物、藤岡誠三は敗戦前、旧制高等農林学校卒業生として満州へ渡り、農業技術者として働いた。「農業は命の基本であるはずだ」と信じ、開拓は青春の夢だった。敗戦後はシベリア抑留を経て、行き場のない引揚者と共に一開拓者の道を選んだ。

開拓は困難だったが、みんな力で合

わせ、子供たちのために小学校の分校を建てた。子供たちの歓声が時代を開くかに見えた。しかし、時代は子供たちに農業への展望を与えなかった。分校も廃校となり、農家もわずか5軒になった。地区住民の連帯保証をかぶり、誠三の負債は返済不能となる。しかも作業中に腰を痛めて入院。後継者がいないため農協からは撤退を勧告され、息子たちも離農をすすめた。農地は負債の返済に接收されるだろう。

◆自分で選んだ道

自分たちは少数派であるが故に時代から捨てられたが、あくまでも自分で選んだ道である。「土に生きた者は土に帰るのが道理だ」と覚悟を決めた。

そのとき、遠くからかすかな歌声が聞こえるような気がした。自立した「少数派」の文化を引き継ごうとする若者たちの「協同の歌声」のようだった。

〈少数派のうた〉

大の虫が生きるために
小の虫が踏みつぶされる
小さな虫が

人間であるための
新しい歌が欲しい
新しい歌を運ぶ風が欲しい
人間と歌があるとき
そこは新しい故郷なのだ

【ものがたり】

高原地区は北海道の日高山系にある僻地の戦後開拓部落である。「素人百姓」と軽蔑されながらも戦中戦後の波乱の人生で培った経験を生かし、自分たちで分校を建て、校歌までつくった。しかし、大稲作地帯に灌漑用水を供給する灌漑ダムが建造され、地区の大部分を湖底に沈められた。今では町から20キロも離れて孤立した部落となり、農家も5家族しか残っていない。

◆第1場 3月下旬、藤岡家の土間

誠三は作業中に腰を痛め、入院していたが、妻の七回忌で息子たちが集まるので早めに退院してくる。後継者を作らなくてはならない。

長男の一郎は鉄鋼会社のエリートエンジニアだが、構造不況のありを受けてアメリカ力に外向することになっている。中学校の教師をしている長女の初子も高校受験の

息子を抱え、余裕がない。唯一の頼りはRに採用されず失業中の次男の哲夫だが、

営農が破綻することは避けられないと感じている誠三は、息子たちを巻きこまず、自分一人でやれるところまでやるつもりだ。

◆第2場 営農計画書をめぐって

農協職員がやって来て、営農計画書についての集まりが開かれる。誠三だけでなく、地区から出稼ぎに出ている定夫も帰郷が遅れ農協では問題になっているという。

山寺の二代目住職の托善は役場の雑務を手伝いながら、地区の生活者と共に生きようと努力している。行政や農協が直面している問題もよくわかるが、取り残された開拓民はどうなるのかと心配している。

高原地区はもはや尋常な手段では継続できないことがはつきりしている。そこで残地を集めて協同営農することはできないかと密かに考えている。

◆第3場 追い詰められて

托善は町の住民に呼びかけ、地域を守るコンサートを企画している。開拓教育の保健婦、夏子も協力している。

そこへ農協に呼び出された一郎、初子が飛んでくる。父親誠三が離農者の連帯保証で多額の負債を抱え、離農勧告を受けたという。何とかしなくてはならない。

できればこの際、父親を説得して離農させたい。哲夫は後を継いでほしいと考え、誠三は「その必要はない」と受け付けない。

◆第4場 土に生きた者は土に帰る

誠三はいよいよ最後の時が来たことを覚悟する。シベリア抑留以来の相棒義男は「残った俺の農地で二人の協同農場をつくらう」と提案する。少年時代から国の政策に翻弄され続けてきた二人は、改めて自分たちは何をしてきたのかと人生

を振り返る。

満州開拓では中国人に恨まれ、シベリア抑留では多くの仲間を失い、帰国後は原野を開拓して子供を育てたはずだったが……やはり土に生きた者は土に帰るべきだと納得し、シベリア抑留時代に覚えた『力チューシャ』を歌いながら踊り出す。

◆第5場 高原分校の校歌を歌おう

思いがけない展開だった。父に逆らっていた哲夫が托善に助けられ、若者たちの協同グループを結成していた。逃げ回るのはやめて、自立した「少数派」の文化を引き継ぎたいと、農協理事会を説得していた。

「協同の歌声」が響く。「あてのない旅を続けるよりは、あの緑の谷へ帰ろう」と。



俺は誰の世話にもならん！腰を痛めている誠三は倒れる。



農協理事会では離農勧告を出さざるを得ないと言っている。



「親父を何とかしよう」一郎・初子と哲夫では意見が分かれる。



土地は借金のカタにくれてやる。俺たちは二人の協同農場を作らう。



哲夫は「地区の農業を協同でやりたい。認めてほしい」と頭を下げる。



廃校になったけど、親父たちが建てた高原分校の歌を歌います。

木村ノート◆われらいずこより来たる 第2部◆
1963年 インドネシア訪問文化使節団

木村 快

前回までの記述

★レポート81号 1950年、新劇運動の分裂

戦時中、弾圧を受けた新協劇団は敗戦後復活するが、ソ連支持派と中国支持派の対立で1950年に新協劇団も分裂。中間派は「ヴェリテ・せるくる」を設立。

★レポート82号 1951年、新制作座のスタート

演劇観の違いからヴェリテ・せるくるは半年で解散。真山美保、草村公宣、榎村浩吉で新制作座としてスタート。

★レポート83号 1954年、庶民の新劇をめざして。真山美保の『泥かぶら』、炭鉱労働者と旅の一座

の交流を描いた『馬五郎一座顛末記』が注目を集め、労働組合関係者の支持で全国公演が始まる。

★レポート84号 1959年① 不思議な学校

「哲学・思想史」中心の特別研究所開設。

★レポート85号 1959年②全国巡演活動の実態

1959年夏から、『馬五郎一座顛末記』で北海道の炭鉱地帯の巡演が始まる。これは日本新劇史上画期的なことだった。

★レポート86号 1960年 安保闘争。

若者中心の劇団だったから新劇人デモ行進ではないつも中心を担った。労働者の支持が厚く、平和集会にはいつもかり出され、国際的要人からも注目が集まった。そして、インドネシア共和国から招請されることになった。

【世界の流れがまだ不明だった時代】

◆インドネシア訪問日本文化使節団 演劇の国際協力としては画期的だったはずのインドネシア訪問日本文化使節団の記録は、知られたいくない歴史だったのかどうか、なぜか日本の演劇史には記述がない。

新制作座・前進座、新劇人会議、アジア・アフリカ作家会議の名前を連ねた「インドネシア訪問日本文化使節団」が貨客船「日昌丸」で神戸港を出港したのは1963年1月2日だった。

日本ではやっと社会の混乱が収まり、成長しはじめた時代である。当時、ぼくは劇団歴5年目、26歳だった。

◆構成団体

①新制作座Ⅱ劇団員130名余りを抱え、新劇界最大の職業劇団だった。公演活動は芝居班1班、合唱構成班2班が全国を巡演していた。そこから30名が選抜され、新しく国際班がつくられた。演目は日本の民族舞踊と、アジア・インドネシアの音楽による合唱構成舞台だった。

②前進座Ⅱ訪問団の構成についてはどのような経過があったのかはわからないが、新制作座に問題があっても、前進座にはそれを補強する力があると見込まれたようだ。メンバーは中村公三郎を責任者とし、坂東三郎、中村鶴蔵、中村梅之助、嵐芳夫の5人が参加した。演目は歌舞伎踊り「獅子舞」と「棒しばり」だった。

③新劇人会議Ⅱ東京芸術座所属、関口潤。

④アジア・アフリカ作家会議Ⅱ松本正雄

訪問団事務局長・松本正雄

◆インドネシア共和国とは 当時、東南アジア一帯はまだすべてイギリス領、フランス領、アメリカ領の植民地で、各地で民族独立の闘争が起こっていた。

特に「蘭印Ⅱオランダ領インドシナ」と呼ばれたイ

ンドネシア諸島は複雑で、200以上の島々があり、それぞれ文化も風土も異なる島々で構成されている。オランダは民衆が結束しないよう、320種以上あった種族語をまとめた共通語を作ることを禁じていた。宗教的にはイスラム教、プロテスタント、カトリック、ヒンズー教、仏教と様々である。

インドネシアの人口は現在約2億6千万人と言われているが、その90%はイスラム教徒だと言われ、実は世界最大のイスラム国でもある。しかし、反面、多種多様な民族からなる多民族国家でもあり、当時のインドネシアは人類文化未到の「多様性の統一」に向かって悪戦苦闘の道を歩みはじめていた。

◆共和国の誕生 インドネシア共和国の中心はジャワ島であり、大戦中には日本軍が進駐していた。日本敗戦後は主要な民族で連合する共生の道を志向するが、オランダが再び軍を派遣して植民地維持をはかり、これにイギリス軍が連合し、さらに連合軍の要請で帰国直前の日本軍が協力するなど、とても通り一遍の説明はむづかしい。

そうした混乱からスカルノたち民族運動派を中心としたインドネシア独立軍が生まれ、オランダ、イギリスの連合軍と戦って、1949年12月に共和国として独立をはたす。

◆第3勢力を目指したアジア・アフリカ会議

1955年にアジア、アフリカ29カ国がインドネシア・バンドン市に集まり、「アジア・アフリカ会議」が開催された。アメリカ側にもソ連側にもつかぬ第3勢力として植民地主義反対、民族主権の確保、平和共存、経済文化協力を原則とした平和宣言が採択された。この会議は「バンドン会議」とも呼ばれている。



スカルノ官邸ホールでは大統領から歓迎の花束が真山美保以下一人一人に手渡された。



【上】1963年1月18日 ジャカルタ・タンジュンプリオーク港に着港。数千人の群衆が待ち受けていた。
【右】スラムダタン像。「ようこそ」という意味。ジャカルタ市中央部に建造されたばかりだった。



【なぜインドネシア訪問なのか】

◆インドネシア・ナサコムの成立 1962年にスカルノ大統領らの民族運動派、イスラム部族連合、共産主義派が連合し、それぞれの頭文字を連ねた「ナサコム」統一戦線が成立した。そんなときだったから、1962年の日本の平和大会に来賓として招待されていたインドネシア代表団は、観衆を熱狂させる新制作座を觀て、ナサコムとしてインドネシアに招待しようと考えたようである。

新制作座は単独で訪問するつもりだったが、演劇界では新制作座だけを日本代表として送り出しているのかと、反対の声が起る。どこでどう決まったのかはわからないが、政治的決着として新制作座33名を中心に前進座から5名、新劇人会議、アジア・アフリカ作家会議から1名づつ、計40名の「インドネシア訪問日本文化使節団」となった。

◆民主団体との決別 ところが新制作座側では民主団体と呼ばれる共産党寄りの勢力による策謀だとして反発が広がっていた。そのため、インドネシアへ出発する数日前、突然総会が開かれ、100人以上の劇団員の前で、ぼくへの批判会が始まった。劇団に無断で社会思想の勉強会を開いたというのである。60年安保闘争以来、劇団では「社会思想を学べ」と奨励していたので、若者たちの勉強会が開かれていた。ぼくはみんなのために学習雑誌を取り寄せる協力をしていた。

議論はどんどん加熱して、ついには「木村は指導者意識でみんなをおおっているのではないか」ということになった。ぼくは入団以来いつもみんなの後ろにいるタイプで、頼まれれば何でもやる便利屋にすぎないことはみんな知っているはずだった。だが、真山美保は意図的にある方向へ議論を進めていた。つまり、木

村の非芸術的な政治主義は人間をゆがめるという主張である。延々と続く批判会では、ぼくと相談し合った仲間たちまでがぼくを批判する側に変貌していく。

ぼくは集団というものの恐ろしさを初めて思い知らされた。こんな劇団で働くのはやめようと思った。しかし、ぼくは舞台のアカーディオン担当である。ぼくがいなくなると親善公演は大混乱になる。せめてインドネシア公演だけは勤めようと思つて涙を呑んだ。

あとでわかったことは、実は座内の共産党員グループを批判するつもりだったが、直接党員を批判すると政治問題化するので、党を手助けしていると見られるぼくを批判し、党員を牽制したらしい。

前号でもちよつと触れたが、この時期、新制作座は全国的な労働組合連合をバックに新制作座文化センターの建設にかかっており、建設資金として政府からの福利厚生資金の融資が決まりかけていた。そのため政府寄りの大労組の意向を重視してレッド・パージを考えていたようだった。

【新しい国、燃える国】

◆大歓迎を受けて 当時、海外旅行は貨客船で一ヶ月前後かけるのが普通だった。途中、イギリス領だったホンコンやシンガポールに寄港するが、高層ビルの建ち並ぶ光景には目を見張ったものだった。17日間の船旅を終えてインドネシアのタンジュンプリオーク港に着くと大歓迎の波が待っていた。

◆東京では異変が起こっていた 真山、楨村、草村の三幹部はすでに飛行機でジャカルタに到着していた。そこで全員集められ、新制作座内の共産党員グループリーダーだったYさんが無断で退団して姿を消したと告げられた。そして、これから始まるインドネシアの

インドネシア共和国の中心部 ジャワ島を巡演



◆航海日数 17日間。

◆公演データ

滞在日数 88日

公演都市数 16都市

◎ジャカルタ、ボゴール、バンドン、

スカブミ、チェリボン、スマラン、

プルオクルト、ジョクジャカルタ、

ソロ、スラバヤ、

バリ島デンパッサル、その他。

公演日数 61回

観客数 23万7千人

公演総キ口数 3万5千キ口

旅では前進座や事務局メンバーは共産系だから接触しないようにと厳命された。やはり共産党員排除に踏み切ったらしい。

以後、新制作座メンバーは前進座・事務局メンバーと一切口をきくことなく、移動のバスも別々になった。これには受け入れ側の歓迎委員会の人々も困惑したはずである。

◆インドネシア・コミテ インドネシアは長い間オランダの植民地であったから、人々はオランダ語を共通語として使っていた。訪問団事務局との間では英語になるが、スラングと言われるオランダ語なまりの独特の簡略化された英語だった。ぼくはインドネシア人スタッフと関わるうちに、日常的な会話はできるようになった。

歓迎委員会はインドネシア語で「コミテ」と呼ばれていた。責任者のサマンジャヤ氏は作家であり、国会議員でもあった。常時20名以上のメンバーが訪問団のスタッフとなり、担当を決めてガイドし、われわれの細かな要求について対応してくれた。

街から街への移動は常に軍の車が先導していた。やはり情勢は緊張しているようだ。しかし、行く先々では熱狂的な歓迎を受けた。

◆木村はどう扱われたのか 当初、事務局や前進座メンバーはぼくの存在を不思議に思ったようだ。新制作座メンバーとほとんど口をきかないようだし、自由時間にも一人で行動している。

休日にはみんなからの要望で買い物グループ、芸能鑑賞グループ、商店街の見学と幾つかのグループに分かれ、それぞれにコミテのメンバーが何人かずつ付いてガイドしてくれる。ぼくはみんなと口をきくのが厭で、いつも一人でインドネシア音楽の楽譜を楽器でチェックするようにしていたが、必ず決まったメンバー

が付いてくれ、好きなお茶を飲んでくれた。お茶を飲みながら自由に話げできた。

◆コミテ側の配慮 コミテメンバーの話によると、劇団の榎村幹部がサマンジャヤ氏に「木村がいろいろ話しかけても取り合わないでくれ」と言ったらいい。すると、サマンジャヤ氏が「ノー、彼はとてもインドネシアのことを知りたがっている。仲間みんな彼を愛してる」と答えたという。

そういえば、コミテのメンバーはいつもぼくに気を遣ってくれ、作曲家のティティ女史は立派なインドネシア地図を買ってくれたし、ぼくが英字新聞を読むのに苦労していることを事務局長に伝えてくれたらしく、英文学者の松本先生は三省堂の英和辞典をそと貸してくれた。どうやらコミテの情報で事務局や前進座メンバーもそれとなく気を遣ってくれるようになった。

◆滞在期間の延長 公演は順調に進んだ(6ページ上段を参照)。巡演期間は3月一杯のはずで、ジャワ島の公演が順調に進み、バリ島の公演で終わるはずだった。ところが、突然2週間延長されることになった。その代わり、帰国は船ではなく特別派遣の飛行機になった。コミテ側の強い要請だという。どうやら中国から追加の滞在資金が出たらしい。

中国も建国して以来、アジア・アフリカグループに属していたが、次第に力をつけており、インドネシアとの連携が進んでいた。

◆近衛師団の残留日本兵 一人で歩いていると思いがけない人と出会うこともある。ジャカルタの街で残留日本兵のM氏に声をかけられたことがある。M氏は東京の近衛師団の出身で、敗戦後インドネシア独立戦争に参加し、インドネシア人女性と結婚したため4人



★新制作座にはぼくの写った写真はまったくなかったが、プリオノ文化大臣邸で合唱している時の写真をインドネシアのカメラマンがくれた。



★インドネシア独立戦争でオランダ軍を打ち破り、首都バンドンに突入したときの歌「ハロー、ハロー、バンドン」を歌う構成舞台。クライマックスは日本でも歌われた「ブンガワンソロ」。こうした場面では観客席も一斉に合唱する。まさに今燃えている国といった感じだった。

の子供があり、帰国を断念したという。彼の話では独立戦争に参加した日本兵は千人以上いたらしい。

その後、別な町でもコミテの手引きで残留日本兵と会い、独立戦争に参加した日本兵の実態を聞くことができた。恩給問題などがからみ、日本側の資料からは抹消されたと憤慨していた。

◆ヒロシマは平和のシンボルか 公演スタッフには数人のシンガポール大学生がいた。彼らと雑談したとき、ぼくは自己紹介として平和都市広島で育ったことを話した。すると「オオ、ヒロシマ！」と周りにいた数人が寄ってきた。ところが彼らにとってヒロシマは平和のシンボルではなく、アジア人を抑圧した日本が破れた記念のシンボルだという。シンガポールの歴史展示館には最後に原爆の写真が飾っており、これでわれわれは解放されたと書いてあるそうだ。日本人の戦争に対する反省は自分本位で、アジアからの視点はなかったのだ。

◆劇団内に変化が起こり始める 誰とも口をきかない生活だったが、あるとき、同期生で沖縄出身の宮城信二が「インドネシアの若者に沖縄の話ができたらいんだがな」とつぶやいた。当時、沖縄は米軍占領下にあり、沖縄出身者は日本国内でも常にパスポートを持参していなくてはならなかった。

そこでサマンジャヤ氏に「ミヤギの話聞いてくれないか」と頼むと、「OK、青年たちにミヤギの話聞かせる場をつくらう」と言ってくれ、それとなく宮城に声をかけてくれたらしい。

宮城はサマンジャヤに自分が沖縄出身であることを話してからは、人が変わったように明るくなった。宮城は重要会議にも参加していたから、幹部たちがどんなことを考えているかが、ぼくにもだんだん分かってきた。さらにS子やC子もぼくと話したがっている

言う。

◆新制作座はどうなるのか みんな日本のお茶を欲しがった。かなり疲れが見える。雑談になると、インドネシアの悪口になりはじめた。その点、前進座・事務局グループは生き生きしていた。何が違うのだろうか。コミテのメンバーに頼んで木村、宮城、S子、C子で自由に話し合う場を作ってもらった。話を聞いてみると、真山美保に忠実に従っている風に見える生活が相当なストレスになっているようだった。

当時40歳だった真山美保の言動は明らかに異常だった。安保闘争の頃は「私は真のマルクス主義者です」と言っていたが、インドネシアでは「私は芸術家でございます」と言い始め、常にその時の自分の心情で押し通すようになった。榎村書記長も草村代表もそれを補うことができなくなっていた。わずか数年のうちに大発展したはずの新制作座だが、あらためて劇団組織とは何か、集団とは何か、何が大事なのか、いろいろ考えさせられた。

特別派遣の飛行機で帰国したのは4月17日だった。

◆短かったナサコム時代 振り返ると、ちょうど1962年から65年にかけてはインドネシアにとっては希望に燃えたわずかな期間だった。われわれが帰国した翌々年、1965年9月にはクーデターが起こり、9・30事件で共産党員の大虐殺が行われた。共同の国づくりを目指したナサコム時代は幕を閉じた。スカルノ大統領は排除され、スハルト將軍独裁体制となる。

偶然だが、ぼくらはナサコム時代のインドネシアで公演活動を展開していたのだ。苦労を共にしたコミテ・メンバーの人々も消されてしまったらしい。

★帰国後の新制作座については次号で記述したい。

懐かしいメンバーが集まりました

7月のある日、劇団「希望舞台」の稽古で現代座ホールに集まったのは、昔「統一劇場」時代にいっしょに活動していた仲間たちでした。「希望舞台」は1986年に統一劇場から独立して、全国をコツコツと公演して回っています。ところがこのコロナ禍で公演は全てキャンセル。どうしようかと悩んでいた責任者の由井さんは何十年ぶりがで統一劇場時代の林操さんと出逢いました。

「ミカルの演技が得意で、台本も書く林さんと組んで新しい活動を始めてみよう」ということになったのです。音楽は岡田京子さんに頼みました。演奏するのは現代座の今村純二さんと花かごの熊倉正博さん、現代座の中村保好さんも出演する事になります。そしてこの日みんなが集まったのです。「同窓会だな」と木村快もいっしょに記念撮影をしました。



今村純二 林操 中村保好 木村 由井数 熊倉正博
玉井徳子 岡田京子

10月2日3日には現代座ホールで、
はやしみさお作「すまねえな」を公演します。

現代座会館 6月～9月 活動日誌

6月2日 ワーカーズ三多摩と打ち合わせ

6日 大塚未来さん来訪

15日 協同総研相良氏と打ち合わせ

19日 「現代座レポート86号」 発送作業

21日 蔦谷夫妻と新快塾

23日 ワーカーズ藤田氏相良氏と打ち合わせ

7月9日 吉原毅氏と馬場税理士打ち合わせ

12日 「川崎平右衛門研究会」事務局会議

21日 第5回現代座タスクフォース会議

8月1日 緑町第2町会役員会

4・6・18・23・27日 ワーカーズ新人研修

17日 「川崎平右衛門研究会」事務局会議

第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

6月10～29日 イデオサヴァン「あきる野」稽古

7月6日 劇団希望舞台 稽古録音

16～26日 劇団仲間「わすれものの森」稽古

27～8月29日 現代座「風は故郷へ」稽古・公演

8月31日 クロジ「白い雪と赤い華」稽古

【三階小ホール】

6月13日 「ハトノス」稽古

16日 飯村先生「夢風船」

14・21・28日 現代座「風は故郷へ」稽古

23・24日 朗読教室発表会

26・27日 スタジオ・ポラーノ青戸稽古

7月12・19・26日 現代座「風は故郷へ」稽古

31日 第2回「劇場と協同の多摩研究会」

8月12日 希望舞台「すまねえな」稽古

30日 スタジオ・ポラーノ

隔水曜・木曜日 朗読教室

毎火曜・木曜日 ヨガ教室

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費（現代座レポート購読料を含む）

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円（1口以上）
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座